

- 1 日時 平成30年1月27日(土) 午前10時~11時半
- 2 場所 荖崎保健センター2階会議室
- 3 出席者 都市計画部部长, 次長, 都市計画課長, 公共施設跡地利用室長, 室員 2名
- 4 参加者 22名

5 内容

(1) 開会

(2) 職員紹介

(3) 調査結果

(1) 庁内利活用意向調査の結果について

(2) サウンディング型市場調査の結果について

(1)(2)について、別紙説明会資料及び実施結果一覧を用いて、説明した。

(4) 意見交換 (●:参加者, ○:市)

- 荖崎地区の中心は高見原である。高見原と同様に整備してほしい。具体的に計画実現を決定するのはいつか。
⇒○地元意見を汲み取ることを最優先に考えており、時期の期限は決めていない。
⇒●目標年度を決めて取り組みを進めないと遅れていく。
- 荖崎地区東側の住民からスーパーはいらないと意見が出るかもしれないが、西側にはスーパーがない。スーパーやドラッグストアの需要はある。交流スペースがあるとよい。バス乗入れ体制も維持し、来やすい場所にしてほしい。床屋やパーマ屋があると嬉しい。
- つくば西武と同様、荖崎でもスーパーなどが撤退している。民間企業を誘致、持続していくのに、市の支援は何かあるのか。
⇒○事業者から市への要望も併せて対話している。出来ることを支援していく。地元要望の確認について協力要請があった。
- サービス付き高齢者住宅などには、温浴施設や食事、健康体操、カラオケなどが出来る施設整備がされていると思う。それら施設を地域住民に開放し、公益性を持たせる取り組みがあるといいと思う。公募の際には、市としてどのような支援策をPRしたのか。また今後、市ではどのように関わっていくのか。
⇒○調査において、市への要望など忌憚ない意見をいただきたく公募した。支援の形や今後の関わりは、地域の要望を実現するために何が出来るか、繰り返しサウンディングを行っていく。

○谷田部庁舎跡地と比べて提案が少なかったのは、市街化調整区域であるためと考えられる。

提案にある公共スペースを併設するなど公益性や公共性のある事業ならば、開発指導課との協議は必要だが、商業施設も可能と考えている。

●立地適正化計画、公共交通改編、跡地検討は相互関連性が高いと思う。それぞれの影響を見据えて検討してほしい。

2025年を目途に進めてほしい。団塊の世代は2035年となると、みんな死んでいる。

⇒○立地適正化計画は2035年を目標にはしているが、出来ることからどんどんやっていきたいと考えている。つくタクつくバスの公共交通の改編も検討中である。庁舎跡地も2035年目標ではなく、皆さまの意見を聞きながら、方向性が決まれば即作業ができるように進めていく。

●にぎわう、楽しくなるような店舗がほしい。交通の見直しとは切り離して、早く進めてほしい。

(5) 閉会